

## ■ 曲目解説

文・飯塚久夫(日本タンゴ・アカデミー&日本アルゼンチンタンゴ連盟 会長)

### ベリンジェリ:コンパドリータ・ミア

コンパドレとは「親友」。転じてコンパドリータは「つっぱり女」。従ってタイトルは「俺の悪い女仲間」。歌詞はないが、曲想から窺えるか？

### コジャーソ:ママ、わたし恋人が欲しいの

かつて“タンゴの女王”と言われた藤沢嵐子が歌って日本でも有名になった。1928年の作品。タンゴとしては異色の歌を楽しもう。

### デ・カロー ラウレンス:マラ・フンタ(悪い仲間)

1927年に作られ、デ・カロのタンゴ改革路線を象徴する曲。この曲によってポリフォニーやバリエーションなどアレンジの高度化が進展した。

### デ・カロ:ブエン・アミーゴ(良い友)

作者は高度な音楽性を有するバイオリン奏者。それだけに最初はとっつき難い曲が多いが、この曲はメロディも親しみやすい。

### ガルシーアーゴメス:月の今宵

1943年の作品。40～50年代の“タンゴ黄金時代”でも有数のヒット作。「流れる舟歌に月は隠れた。夜は君に愛を渡す。その愛を私は確かめる」とロマン溢れる歌詞。

### スタンポーニ:いつまでもここに

1956年発表、当時ブエノスアイレスにいた藤沢嵐子が最初に歌った。作詞はオメロ・エスポント。他に『Naranjo en flor』『Cafetín』などの名作がある。「私たちの人生は終わりのない詩。ここでおしまいにしよう」。

### ピアソラ:リベルタンゴ

1974年作。97年にTV-CMで使われ、タンゴの音楽ブームが再燃する契機となった。ダンスは80年代からタンゴ・ショーがパリやブロードウェイを越えて世界に広まっていた。

### ラミレス:アルフォンシーナと海

アルフォンシーナはアルゼンチンの女流詩人。1892年生まれ。苦しむ女性に向けた詩作や戯曲など未婚の母として名声を確立。しかし乳がんを患い、1938年、海に身を投げた。これは彼女が最後に残した詩。

### ビジョルド:エル・チョコロ

今日有名なタンゴの中では最も古い1903年の作品。その後、欧米に伝わり、独自の歌詞で広まった。52年にはジョージア・ギブスの歌(キス・オブ・ファイヤー)が全米ヒット1位となった。

### トロイロ:破局

1962年の作。トロイロはアルゼンチンで最も親しまれる奏者。そのバンドネオンは生誕100年を記念して修復され、多くの名手に弾かれ続けている。正直とか誠実と人生の現実とは真逆というアイロニーを

こめた歌。

#### **エレロ：不平屋**

現代タンゴの真髄プグリエーセの下で第1バイオリンを長く担当したエレロの傑作。プグリエーセ自身の名演も1959年に残されている。

#### **ロビーラ：エバリスト・カリエゴに捧ぐ**

作者は12音階などもマスターしたモダン・タンゴの旗手。これが彼の最高傑作。今日のダンス・ブームを牽引したフォーエバータンゴの中で印象深く使われて以来、コンサートの定番。

#### **ピアソラ：私はマリア**

結婚生活の破綻などでスランプに陥っていたピアソラは、1968年、詩人のフェレールと組んで《ブエノスアイレスのマリア》という小歌劇を発表。2部16場からなるが、これはその中の1曲。タンゴの喩え“マリア”の誕生、栄光、苦悩、そして復活が語られる。

#### **ピアソラ：ロコへのバラード**

『マリア』の翌年、フェレールの詩で発表。従来のタンゴと異なる曲想・歌詞だが、カフェや場末の音楽という“タンゴ”のエッセンスは保持しながら、普遍的な芸術との接点を築いた。

#### **ラミレス：巡礼**

ラミレスは有名なfolklore奏者ユパンキの勧めで南米各地のリズムや、さらに国立高等音楽院で作曲法を学んだ有能な音楽家。ミサ曲にも優れた作品を残している。

#### **マトス・ロドリゲス：ラ・クンパルシータ**

この曲は1917年にウルグアイのモンテビデオで初演された記録はあるが、作曲は16年説、17年説などあり定かでない。コンサートで最後にこれが演奏されると、客は気持ちよく帰ることができる。